

# 審議会等議事概要

平成26年度 滝川市保健医療福祉推進市民会議第4回計画策定専門部会 議事概要

日 時	平成26年11月6日（木曜日）午後6時30分～午後7時50分
開催場所	滝川市役所8階 大会議室
出席者	男澤委員、椿坂委員、奥平委員（代理）、岸部委員、泉田委員、神部委員、須田委員 （欠席：宮腰委員、安居委員） 事務局：佐々木保健福祉部長、松澤介護福祉課長、渡辺主幹、柳主幹、相澤副所長 谷本課長補佐、加地係長、須藤主査、伊藤主事
議 事	<p>1 開 会</p> <p>2 部会長挨拶 男澤部会長より開会にあたって挨拶があった。</p> <p>3 議 題（進行：部会長）</p> <p>（1）第6期計画の主要事業と計画骨子の検討</p> <p>事務局）資料に基づき、介護保険事業量の見込み、第6期計画の主要事業と計画骨子について説明</p> <p>委員）既存の認知症グループホームについては、定員108名に対し、27年度から29年度までの1月当たり利用者数が96～99名となっているが、定員に合わない分は市外の利用者ということか。一方で介護職員の不足により空き部屋を設けているということを知っているが、その分を踏まえているということか。</p> <p>事務局）定員に対する差は市外の利用分である。現状の利用状況・介護給付額をもとに積算したものであり、空き部屋分は考慮していない。年度当初にある施設で空き部屋を設けていると聞いていたが、現在は解消したと知っている。</p> <p>委員）地域密着型老人福祉施設は市内にないが、どの施設を対象にしているのか。</p> <p>事務局）市民の方が市外の施設を利用している分を推計の対象にしている。具体的には浦臼町のゆうあいの郷である。</p> <p>委員）特別養護老人ホーム緑寿園の介護職員は不足していないか。</p> <p>事務局）常勤換算で入居者3人につき介護職員1人の3：1が基本であるが、2.3：1から2.5：1で配置されている。介護職員の中には退職される方もいるので、不足しないようにその都度募集し対応している。</p> <p>委員）特別養護老人ホーム緑寿園はユニットケアを含み建て替えられるが、1.5倍の職員が必要とされており、介護職員の充足の不安はあると思われる。ユニットケアは4人部屋よりは入居費も高くなり、年金だけの人が入居できるのかと心配もある。国で多床室の入居費を見直す動きもあり、ユニットケアの量をどのようにしていくかの判断が今後必要になると思われる。</p> <p>委員）介護療養型医療施設の転換については、これまでも3回に渡り延長されており、国もやめきれないようなことになるのではないか。</p>

委員) 病院に対し、今後の形態について調査が行われている。急性期か医療型かなど定められる動きもあり、今回は転換を進めるかもしれない。

委員) 市立病院を退院して、すぐに在宅に戻れない人が多い。受け皿になる病院が見直されるべきではないと思う。国の方針でもあるが。医療を在宅に任せる動きに不安を感じる。また、緑寿園の建替が予定されているが、街中で充実していくことも示していくべきである。在宅を開業医の中で対応は難しい。

委員) 「住み慣れた地域で日常生活を送ることができるように」とあるが、商店も少なくなり、通院など行くまでの交通などの手段の問題もあり、高齢者には厳しくなると考えられる。長く入所できる施設が望ましいが、交通利便性の良いところに住むようなことも必要となる。

委員) 介護と医療の必要な人に対し、介護ではグループホームなどの施設があるが、医療の受け皿は少ない。そういった方をサポートする地域の力も落ちてきている。

事務局) 地域を巻き込んでいくことにかかっている。どのように進めるかしっかりと検討していかなければならない。

委員) 地域の中で潜在的な協力者としては、老人クラブや町内会などが考えられるが、葬儀などご近所との関わりが薄くなっている。滝の川町東の地域ではコミュニティカフェが行われ、サポーター3人を含め1日17人利用している。利用拡大に向けて老人クラブの会合で利用を働きかけていきたい。

委員) 地域活動は福祉分野だけでは限界と感じている。老人クラブや町内会への未加入者も多く、社協や消防協会の負担金を納めない町内会もある。福祉以外にも考えていく必要がある。

委員) 計画の骨子をみると明るいことばかりがクローズアップされる印象がある。暗く後ろ向きなことも記載すべきである。

委員) この計画は骨子のスタンスでいいと思う。計画をもとにどのように進めていくかが重要である。

委員) 計画の骨子を踏まえ、滝川らしさのある取組を考えていく必要がある。

委員) 健康日本21にも取り上げられているが、平均寿命の中で、健康である期間を示す健康寿命という考え方がある。こういった指標の改善を目指して、取組みを考えることも可能と思うが、健康寿命は求められないか。

事務局) 健康寿命の求め方は厚生労働省のホームページに掲載されているが、国・道の数値と比較しながら求めることになっており、2年前のデータを用いることになる。参考として算出し、取組みのフォローとして活用はできると思うが、第6期計画に掲載し、その改善を目指すとは大々的に位置づけることは難しいと考える。

事務局) 生活支援サービスなどを行うボランティアの確保が課題であるが、今回の制度改正では生活支援サービスの実施方法として、委託や補助により、福祉コミュニティビジネス的に強化する形で取り組んでいくことにしており、有償のシステムとすることにより担い手の確保が進むことを期待している。

委員) ボランティア活動に対し地域通貨のような取組みも考えられる。

	<p>事務局) 介護支援ボランティアポイント制度を本計画に位置づけたいと考えており、事例では、要介護認定を受けていない人を対象に、介護施設でのボランティア活動、百歳体操への参加など自らの介護予防活動に対しポイントを与え、限度額を設定し現金や介護グッズと引き換えるといったことが行われており、参考にしたいと考えている。</p> <p>委員) 同じ人が複数のボランティアを行っている場合が多く、実数は少ない現状にある。</p> <p>委員) 人口推計結果を見ると平成37年度の40歳以下の人口が11000人程度まで減少すると予測されている。若い年代が残るような施策も同時に必要である。</p> <p>事務局) 滝川市長が自治体代表として、国の地方創生の会議に出席し人口対策について意見を述べている。簡単ではないが、少子化対策を意識し、結婚、出産、育児と切れ目のない対策も同時に進めていく必要があると考えている。</p> <p>委員) 計画の骨子については、介護制度の改正も踏まえておりベストなものと考ええる。北海道もそうだが、問題はいかに計画を実施し現実のものにしていくかである。</p> <p>4 その他</p> <p>第5回策定部会の開催については、「第6期計画素案」の検討の後、市民会議に対し中間報告を行うことを予定しており、「第4期障がい福祉計画」の作成状況も踏まえ、委員の皆様の手間にならないように、できるだけこの専門部会と市民会議を同日に開催する形で進めたいと考えている。介護認定審査会が開催される火曜日以外の日程で、事務局で部会長・副部会長のスケジュールを確認し、後日連絡することにした。12月上旬頃を予定。</p> <p>5 閉会</p>
会議資料	資料 滝川市保健医療福祉推進市民会議第4回計画策定専門部会議案